

松江一中だより

令和6年3月号
文責 池田 浩
校長

本日、令和五年度の修了式を無事終えることができました。保護者の皆様、地域の皆様方のご理解とご支援のおかげでこの一年を乗りきることができましたことに改めてお礼申しあげます。

令和五年度は、前号でも取り上げましたとおり、社会情勢の変化を伴う激動の年となりました。大人でも経験のしたことのないような出来事が、毎日のように報道で取り上げられ、何かに追われているような気分になりました。

おそらく、生徒の皆さんも報道を目にしたり耳にしたりするたびに様々な思いに駆られたことと思います。是非、令和五年度の出来事やその時に感じた自分の気持ちを書き残しておいてほしいと思います。

学校では、コロナ禍前と同じくらいの学校行事を計画し実施しました。規模や実施の仕方をその都度考え、生徒と職員が知恵を出し合って、その時の最適解を導きながら進んできたように思います。一人一人の成長を感じる瞬間でもありました。

生徒の皆さんにも一年間の自分の成長を感じてほしいですし、支えてくださったご家族や周りの仲間に対する感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。

校庭を整備していただきました

二月十五日（木）、南門付近の校庭を整備していただきました。

一中の校庭は、二十五年ほど前に表面を四十七センチメートルほど深く削り、排水溝を整え全面を整備した経緯があります。整備した当初は、校庭に車を駐車しないようにしていましたが、学校行事の度に、保護者の方々の駐車場確保については課題となっていました。年月も経ったこともあり現在は保護者の方々の駐車場として開放する機会が幾度かあります。

しかし、月日を重ねることで、水はけも悪くなり、雨が降るとすぐに水たまりができるようになってしまいました。かねてからその様子を見てくださっていた、地域にお住いの本間様から、特に水たまりが深く砂を入れても改善しない部分について業者を手配して改修してくださいという申し入れがあり、ご好意をお受けすることにいたしました。

雨天時に、校庭を駐車場として開放しますと、保護者の皆様にぬかるみの上や、水たまりの上を歩いていただくなどご不便をおかけするとともに、タイヤについた校庭の砂が道路に散らばり、地域の方々にも迷惑をかけてしまいます。本間様ありがとうございました。



社会で許されない行為は学校でも許されません

最近、学校の施設設備がよく壊れていたと報告されます。公共の施設を壊すなど絶対に許されません。社会で許されない行為は学校でも当然許されません。



トイレのパーティション



更衣室の天井

卒業式を執り行いました

三月八日には、令和五年度第七十七回松江市立第一中学校卒業証書授与式を、学校運営協議会の皆様、保護者の皆様に臨席いただき、本校第一体育館で執り行いました。

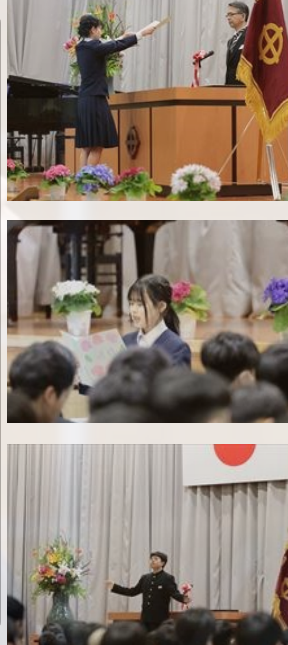
当日は、朝から雨模様でしたので、駐車場としてご利用いただいた校庭が、ところどころぬかるんだり、水たまりができてきたりしたことで大変ご迷惑をおかけしました。式が始まるころには、雨も上がり、太陽の光もさしていましたが、ちょうど木の芽起こしの雨となったのでしよう。

式では、273名の総代、田中理夢さんに卒業証書を授与し、校長が、卒業生自身が未来であること、自分という未来の扉を開くために「学び」を続けてほしいことを式辞の中で述べました。



在校生代表畑菜美さんが送辞を述べ、前生徒会長成瀬心奏さんが答辞で応えました。

卒業生は、式歌「群青」を精一杯歌い、歌声は、会場いっぱい響き渡り、とても厳かで、また、どこかさわやかな卒業式となりました。



〈答辞〉

厳しい冬の寒さも和らぎ、校庭の木々の蕾が膨らみ始める季節となりました。本日、私たち松江市立第一中学校3年生273名は卒業の日を迎えました。

3年前の春、真新しい制服を着た私たちは、不安と期待でドキドキしながら、この松江一中に入學しました。最初は「うまくクラスになじめるかな。」「勉強にはきちんとついていけるかな。」「心配なことだらけでしたが、少しずつ新しい環境にも慣れ、心を許せる友人ができ、中学校生活が楽しくなってきました。

先輩としての一歩を踏み出した2年生。部活動では1年生の指導を任されるようになり、使命感がめばえ、しっかりと自己管理できるようになりました。

研修目的でもあり、思い出作りに欠かせない修学旅行は、一泊ではありましたが実施することができました。小学6年生の時は広島での平和学習とはならず、県内旅行となりましたが、今度こそ県外での研修です。美しい京都の町並みや、歴史的建造物に感動し、いつかもう一度ゆっくり観光したいと思いました。また、なんといってもUSSJでの友達と過ごす一時はとても楽しくて、最高の思い出になりました。

そして、全校のリーダーの役目を引き継ぎスタートした最後の一年。未曾有の混乱をもたらした新型コロナウイルスも徐々にその勢いを弱め、私たちの生活もまた、新たな希望に満ちてきました。体育祭の制限もなくなり嬉しい反面、これまで感染対策により縮小規模でしか体験できなかった私たちは、体育祭を一から作り上げる必要がありました。もちろん手探りでしたので、時間も労力もたくさん必要でした。私の色組では、1年生にダンスを教える前に、3年生が振り付けを覚えられていないという一大事に、どうなることかと思いましたが、放課後や休み時間を削って、クラスみんなで練習した結果、回結したパフォーマンスを披露することができました。

「みんなが熱くなれる体育祭」を目指してどの色組も3年生一人一人がリーダーとなって取り組んだ努力が実り、当日は想像以上に全校が熱狂する体育祭となりました。一致団結してやりとげた体育祭の感動は、いつまでも心に残ると思っています。

在校生のみなさん、先ほどは、心温まる送辞をありがとうございました。

新型コロナウイルスは悪しきものではありませんでしたが、同時に学校生活に新しい風を吹き込んでくれました。前例がないならば、みんなで悩んで、考えて、自分たちなりに工夫して伝統を継承していく。そうすることで、学校生活はもっと楽しくなるでしょう。どうか在校生のみなさんもこれからの一中を盛り上げるべく、あきらめずチャレンジしていきましょう。

そして時には厳しく、時には優しく熱心に指導してください。先生方は、私たちが苦手分野を克服できるように親身になって寄り添ってくださいました。また、先生方には「全校で楽しめるイベントがしたい!」という生徒会発足当時から希望により行った合唱コンクールの企画や全校かくれんぼで、日数の少ない中での急な変更や、寒い中校庭や廊下に隠れてほしいといった無茶なことをお願いすることもありましたが、先生方が丁寧に対応してくだ



さったおかげで実施することができました。本当にありがとうございました。私は先生方が空き時間にしてくださった家族のお話や、学生時代のお話が面白くて大好きでした。

3年生の皆さん。3年間も一緒だったはずなのに、私はこの中で話したことがない人がたくさんいます。3年というのは短いものです。それでも、十分すぎるほどよい友達に恵まれ、私は支えられました。皆と出会う。共に過ごせたことに感謝しています。本当にありがとうございます。

前期生徒会スローガン「煌めきしぶんの光 みんなの星空」には、一中生一人一人に自分の個性を生かすチャンスがありますようにという願いもこめられています。皆さんがこれからも自分の道で活躍できることを願うとともに、私自身も精進していきたいと思えます。

お父さん、お母さん、家族のみんな。いつも相談にのってくれてありがとう。くじけそうになったとき、励ましてくれてありがとう。どんなときも温かく接してくれてありがとう。いつもは恥ずかしくて言えないけれど、みんな、大好きです。これからもたくさんお世話になるけれど、いつか必ず恩返しをするから待っていてください。本当にいつもありがとうとして、これからもよろしくお願ひします。

最後に、私たちのためにこんなにも立派な卒業式を行っていただき、本当にありがとうございました。心から感謝し、答辞いたします。

令和六年三月八日
卒業生代表
成瀬心奏